

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102504		
法人名	(有)サナス		
事業所名	グループホーム出島		
所在地	長崎県長崎市新地町4-15		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

〈尊厳のある暮らしと安心、安らぎの生活〉 家庭的な環境のもとで生活を送って頂けるように理念を掲げています。身体的・精神的な機能の低下などでも、その方の生活の質が最後まで保たれるように常に入居者の立場に立ち、その思いを中心に個別支援を実施し、ご家族様との関わりを多く持って頂けるよう努めています。交通機関の面からも、地理的に面会など訪問しやすい場所にあります。また、当ビル内にある医療機関との連携体制も整っており健康面では入居者様も、ご家族も安心しておられます。ターミナルケアへの取り組みもあり最後のその時まで、その方の生活支援にご家族様と共に関わらせて頂けるよう、職員一同で力を合わせて努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは長崎市の新地中華街から程近い位置で、交通の便が良く、家族にとって訪問しやすい場所にある。建物の5階部分にホームがあり、他の階は通所介護事業所や居宅介護支援事業所のほか1階部分は診療所で、連携した支援により家族の安心感に繋がっている。家族会があり、家族と入居者が一緒に過ごしたり、食事を一緒に摂ることにより、入居者の今の様子を知っていただく取り組みがなされている。安全面においても地元消防団が主催する火災消防訓練に参加をされ、火災や防災についての意識を高められている。又、管理者は介護職や看護師が参加する「まちなか研修会」へ参加し、研修と交流を通じて地域の情報の収集を図り、ホームにおいて安心・安全に暮らせるよう努めている事が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: グループホーム出島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『理念』に対する意識付けを、職員会議・研修会などの度に意識づけし、共有した思いと目標を以て介護支援に努められるよう、常に目に見える場所に掲げ、実践に努めている。	理念は当事業所の理念を食堂に掲示し、入居者が安心してゆっくり過ごして頂く支援を実施されている。年々、身体的な低下が見られるが、職員は個別的な支援や、可能な範囲でのレクリエーションを検討し支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護研修の実習生、サマーボランティア・一般ボランティア受け入れを通して交流を図っている。	ホームでは市内の専門学校の実習生を受け入れたり、サマーボランティアでは腹話術や紙芝居を披露するほか入居者と一緒に折り紙や会話をさせていただきなど、入居者の楽しみに繋げている。一般ボランティアの受け入れも定期的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、自治会や近隣の消防分団、連絡協議会のブロック会などの参加で地域の代表者や施設などとの情報交換の場を持ち、認知症の方に対する知識や、介護の現状を持って貰い、行事への参加や協力体制の要請をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に運営推進会議を開催し、入居者様の状況や事業所の活動報告等を行い、意見・助言を戴き、出された課題に取り組みながらサービスの向上に励んでいる。	会議には地域の世話人・入居者家族・統括・市の職員のほか、以前入居されていた方の家族も参加され、ホームの状況を報告し、出席者からの意見・要望を伺いながらサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には役員と共に参加して頂き、確認事項や不明な点があれば連絡を取り合えるような関わりを以て地域の情報を交換している。	市担当者からは地域の一人住まいの方の情報得ている。市で実施する話し合いも民生員の方々と参加する機会を持ち、以前の町の様子や住んでいた方々の話を聴く事もある。同じ介護職や看護師の方との交流会に参加し情報交換する機会を持たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会・研修参加を通して認識と理解を深めている。施設内の実情として、日中は玄関開場しているが、夜間帯は職員が1人体制となる為、事故防止のため施錠している。	職員間で身体拘束をする事による弊害を話し合う機会を持たれている。夜間は安全面を考慮し動きを察知できるようイレへ行く方には布団に鈴を付けたり、ベッドの使用が難しい方には床に布団を敷くなどして対応されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の合同研修会や外部への研修参加などで学ぶ機会を持ち、実態の把握に努め虐待に対する未然の言動や行為に、お互い注意し合えるような職員間の連携を育んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての勉強会や資料の配布を行い、必要時に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書を説明し、契約時にはご理解と納得を得た上での契約を結んでいる。また、起こりうる事故のリスクや利用料の発生、看取りなどの対応も説明し同意書を作成している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。また、年3回の行事を兼ねた家族会(食事会・敬老会・クリスマス会)を開催し、ご家族同士で気軽に意見や要望を話し合える機会を設けている。	管理者・職員は家族からの意見や要望を聞く機会を持ち家族会や食事会を実施されている。入居者と家族が食事を一緒に摂る事で入居者の様子を知ってもらうなど会話をしやすい雰囲気作りを工夫されている。	家族によっては職員が変わった事や職員の名前を知らない方もいるので、例えば、ホームが発行する「たより」でお知らせしたり、ホーム内で職員名を周知する等の取り組みに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を実施し職員の意見や提案を話せる場を持ち、内容を業務に反映できるように取り組んでいる。	管理者は月一回の職員会議にて話を聞く機会を持たれている。職員の半数が新人であるが、職員間で意見を出し合い、又、実行し易いケアプランの作り方も工夫されている。業務についての担当を決め、支援し易い取り組みを工夫されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内に就業規則を掲示し、何時でも見れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会・合同研修会参加を実施し、基本的な知識の習得ができる様にしている。また、外部の研修参加も掲示・回覧して参加を促し個人での研鑽の場を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会のBブロック会、会議参加を通してネットワーク作りが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族の要望や生活状況を十分把握できるように訪問面接を行い、相談ごとや利用に関する事項を理解して頂いている。また、利用開始後も、不安や希望を相談しやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が必要としているサービスを理解し、どのように支援していくかを十分話し合い、不安や困っている事等を気軽に相談して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・面談及び相談時に真摯な態度で話を傾聴し、現状に寄り添った対応ができるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様本位の生活支援の場を提供することを優先し、共に暮らしていく事を様々な形で伝え、安心して関わって頂けるよう工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を報告している。また、施設で行う行事にはご家族にも参加して頂ける機会を企画し、入居者様との楽しみを持って頂きご家族との懸け橋になれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親族、友人・知人の来訪は暖かく迎え入れ、関わりが継続できるように努める。又、ご家族との外食、法事などの外出の方もあり、定期的に訪問美容室を依頼し、整容にも気がかけている。	ホームでは、入居者の以前からの知り合いの訪問があり、手紙が届く方には部屋に手作りの郵便受けを用意されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やリビングでの席は入居者様方がうまく関わりが持てるよう職員が誘導し、楽しく安心して過ごせるよう配慮している。又、食事時には当番で『頂きます』の声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活の場でも、これまでの生活の維持継続が可能であるように、生活状況や支援内容の情報提供を行っている。施設外でご家族とお会いした時でも挨拶や声をかけさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に合った暮らしが支援出来る様に、利用者様の生活習慣の把握をし、コミュニケーションを交わしながら意向に沿っている。意思の疎通が難しい方は行動や表情から必要なことをくみ取っている。	日頃の生活やリビングでのレクリエーション、テーブルでの貼り絵の作業等、本人にあった支援に努め、日頃と変わった様子が見られた際には記録に残し、「連絡ノート」を利用してその後の支援に繋がらされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの自宅での生活が少しでも継続できるように、入居時に生活歴をお聞きし、慣れ親しんだ物を持ち込んで頂いたりして生活環境を少しずつ施設に近づけて頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の毎日の健康状態の把握に努め、前日からの心身状態は職員間で把握し、利用者様の出来ない部分も把握した上で、認知症であっても出来ることを探り、その力を長く継続できるように支援に掲げ対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン見直しの際は、担当スタッフが中心となりケア会議を通してモニタリングをしている。家族とも話し合い現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランを作成する際、入居者と家族の想いや要望を聞き取り、又、担当制によるモニタリングを行い、入居者それぞれの残された残存機能を低下させないようプランを立案されている。プランは定期的に評価さ次期プランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の毎日の動向や変化・気づき等を個人記録に記載している。業務日誌や職員ノートを活用し、職員間で情報を共有し、日々のケアや介護計画にも活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態変化に応じプランの見直しを行い、支援内容もその状況を把握したうえで変更し、現状に適したサービス内容を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービス主催の夏祭りに参加したり、実習生、ボランティア受け入れを積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携医院の協力を受け、また、必要があれば専門医の受診・住診などご家族や利用者様の希望を踏まえ紹介状も作成して貰っている。	入居の際には概ねホームの協力医へと変更する方が多い。受診の際にはバイタル表や食事の量を記録した個人記録を持参されている。各専門医への受診もスムーズに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な医療面での気づきを早い段階で看護師に伝え、状態の早期発見に繋げている。受診時にはバイタル表と個人記録を添えて、数日間の変化なども伝え、情報共有に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、容態が安定してから面会に行き、病院関係者との情報共有を心がけている。退院後の施設での生活に不安が生じた場合も、ご家族と充分な話し合いをしてこれからの対応を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合は、ご家族と充分な話し合いの場を持ち、主治医より状態の説明も頂き同意書を作成している。医療との連携も円滑に図れており、職員とも重度化・終末期に向けた方針が共有されている。	看取りの支援にあたっては家族・医療機関・ホームとの話し合いを重ね、家族の希望に添えるよう体制を整えている。看取りの経験がある職員が在籍し、緊急時には管理者や医療とも連絡を取れる体制づくりがなされている。褥瘡がある方にはレンタルで電動ベッドが用意されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事故を想定した勉強会や研修会に参加し、具体的な対応や応急手当を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練を定期的に行っており、その活動報告を運営推進会議にて伝えている。近隣のGHや消防分団の方々とも連携を図り、互いの防災訓練へ参加するなどの交流を介し、反省会では意見を伺いながら、協力体制を築いている。	消防訓練は、毎月消火・通報・総合・地震想定訓練又は勉強会等を実施されている。地区の消防団主催の消防訓練に参加された際には、煙を使った訓練や人口マッサージの仕方等を実施されている。消防団の訓練には職員が交代で参加するなど、災害に対する意識の高さが窺える。	備蓄品については備蓄一覧表を文書化して備蓄品の管理者や消費期限を明確にし作成しておくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の危機管理の徹底を図る為、定期的に事業所内で勉強会に参加し周知している。言葉かけに関しても自尊心を損なわない声かけを心がけている。	職員は入居者を人生の先輩として敬う気持ちで支援に努めている。入居者の気持ちが高ぶっている場合でも気持ちを和らげる事に気をつけられている。共有部分には一人ひとりのソファが用意され、入居者同士の関係性に配慮した配置に気をつけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の関わりの中のコミュニケーションや本人の訴えを通してその思いや希望を汲み取り、現在の状態を理解しようと努めている。生活の部分でご自身で可能な範囲でして頂き、必要な部分を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事手伝いは洗濯物タタミ・食器拭き等に声掛けで参加を促している。また、その日の体調や精神的なペースを見ながらレクや趣味活動に声かけし、一人一人の希望に沿った時間を過ごして頂けるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は起床、入浴後の整容や衣服の選択を本人の好みを把握し支援している。又、定期的に訪問美容室を依頼し、希望に応じてパーマや髪を染めたり行きつけの美容院に行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日交代で職員が手作りの食事を提供し、嚥下困難な方には増粘剤を利用したトロミ食など、随時状態に合わせて食事を提供している。また、食材の下準備、盛り付けなどの手伝いもして頂いている。	年三回の家族会の際には、ホテルでの食事も、敬老会では白玉、クリスマス会では職員が手作りのケーキを提供する等、食を楽しむ取り組みがなされている。食後の服薬の際には入居者により予めお湯に溶かしたりして工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や食事摂取量を記録し個々の嗜好、体調に応じた支援を行い水分量も、不足がちな方は目安を支援計画に掲げ確保に努めており、食事摂取が少ない時は、栄養補助食品を利用しながら、栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の嚥下体操や毎食後の口腔ケアを行い、不十分な方には一部介助にて清潔保持に努めている。歯科の定期健診の他、必要に応じてご家族に相談し歯科受診で治療・調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを排泄記録より把握し、日々の状態を職員間でも共有している。必要な方には自尊心に配慮した対応を行い、声掛けでのトイレ誘導や残存機能を活かした介助法で、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	基本的にトイレでの排泄を支援され、失禁時、自分でオムツを処理される方にはバケツを用意し、他の方に分からないようにその中に入れてもらう様に声掛けし対応されている。便秘気味の方には薬やマッサージのほか、食事にバナナやヨーグルトを用意し対応されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し水分補給や食物繊維が十分摂取できるように工夫している。朝食にバナナやヨーグルトを用意し自然排便が出来る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や精神面を配慮しながら柔軟に対応している。一人一人の入浴で、5月には菖蒲湯、冬至には柚子湯を楽しんで頂いている。	入浴を拒否される方には日を改めたり、職員が交代して対応されている。季節により菖蒲湯や柚子湯を楽しまれている。入浴後に乾燥肌の方には保湿剤を用意し、感染症予防の為に足ふきマットを交換し対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日、または数日間の体調を把握した上で日中の活動を促している。自宅と同様に寛げるスペースを用意し、椅子、ソファ、ベッドなどで落ち着ける時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的な効能・副作用、用法や容量について把握し日々の体調変化に注意し、変化は看護師・主治医へその都度報告している。又、処方薬の変更時は服薬変更記録に記入を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好、趣味や得意分野を把握し、可能な仕事を依頼して自信ややりがいに繋げている。また、ドライブや散歩、生け花等や行事への参加などでも生活に楽しみが持てる様に工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事にドライブや行楽行事を計画し外出している。近くの公園への散歩や、個人の希望に沿った買い物支援も行っている。	年々、入居者の体力的な機能が低下しているが、天気や気候が良い時には入居者と近くの広場や港公園等、ドライブに出かける機会を持たれている。訪問美容の利用や、家族に美容師がいる方には家族に依頼されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は個別に預かり、預り金として管理しており、入居者様の希望に応じ、ご家族とも合意の上で使用している。領収書を提示し確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様ご自身が電話をかけることはないが、ご本人の希望に応じてご家族へ電話をかける等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく温かみのある空間になっており、居心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。てきせつな室温を保つと共に換気、臭気にも配慮している。入居者様の作品や季節の花などを飾り、四季を感じて頂けるように配慮している。	当ホームはビルの五階にあり、日当たりが良く明るいホームである。共有部分には入居者の作品や習字を掲示し、テレビの前にはソファが用意されている。入居者は思いおもいに腰を下しテレビを観たり職員と体操をしたりレクリエーションを楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには個人の椅子を置き、入居者様が寛いで頂けるようにしている。また、個々の性格や関係性を考慮し配置や、居場所を工夫し快適な場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れているものや馴染みの家具を持ち込んで頂いている。本人とご家族に相談しながら思い出の写真を飾ったり、居心地よく落ち着く空間作りを心掛けている。	白を基調とした居室は清潔感があり、ベッドとクローゼットが備え付けられ、可能な方は職員と一緒に掃除をする事もある。今まで使い慣れた家具や写真を持ち込まれている。仏壇を持って来られている方には毎朝、職員や入居者本人がご飯を供えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	多少の段差は生活の中での筋力維持を図れる作りになっている。居室までの廊下には手すりを設け、歩行練習の場にもしている。トイレは解り易く表示を付け照明を明るくするなど工夫している。		